

# 令和元年第3回関市国民健康保険運営協議会議事録

司会 保険年金課長

午後1時30分開会

- ・市民環境部長挨拶
- ・会長挨拶
- ・議事

規定により会長が議長となり、議事を進行する。

議 長	議題第1号 諮問について、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	議題第1号 諮問について ・諮問を読み上げ、資料1～11に沿って説明する。 ・条例改正による保険税が平成29年度から約5億円減少、県への納付金が平成30年度から約3億円増加した。このことにより、令和元年度は国民健康保険基金から約5億円繰り入れ、基金残高は約4億5千万円となる。 ・令和2年度も県への納付金が同額の場合、基金をすべて繰り入れても歳入不足となる。そのため、国民健康保険事業の継続のため保険税の見直しが必要である。 ・3つ保険料率案で、各世帯の負担額、賦課総額、調定総額、その対比について説明。 ・関市の保険料率は県内21市の中で、一人当たりの保険税額は、低い方から2番目となっている。 ・県納付金は2月に決定される。
保険年金課長	県が示す標準保険料率で課税すると、現在一人当たり年間9万円の保険税が、13万円となります。4人世帯だと年間16万円上がることになってしまい、一度に大きく負担が増えてしまうので、基金を活用していきたいと思います。 試算Aは、県が示す標準保険料率と現在の保険料率の中間程度を目安として算定したものです。県が示す納付金は2月にしかわからないが、この試算Aでの税率についてご意見を伺いたいと思います。
議 長	ただいまの説明について、ご質問、ご意見はありませんか。
保険年金課長	1人当たりの保険料が、県内平均より、約10%程度低い水準です。新しい制度になったとき県への納付金が見込みよりかなり低い額でしたので、平成29年度から、制度が変わった平成30年度に14%近く保険税を下げました。 県が今年度示している標準保険料率では保険税がかなり上がってしまうため、基金を活用し上がり幅を抑えた案が試算Aです。17%上がる試算A案についてはどう感じられるのか、忌憚のない意見をいただきたいと思います。

2号委員	<p>前回の会議で、関市からの繰入金で基金が積みあがってきたので税率を下げたといいました。繰入金の有無によって税率が変わってくるのでしょうか。</p>
保険年金課長	<p>町村は財政基盤が弱いので、平成30年度から県が財政の運営主体となる制度改革がありました。いずれは県内で税率を一緒にしていくという目標を国や県は立てています。市町村によって一般会計からの法定外繰入金が違っていると、税率を統一していくのが難しいので、国は、法定外繰入金を入れるなどという方針を示しています。</p> <p>ただし、関市が独自に行っている人間ドックなどの保健事業の法定外繰入金は、国に認められています。2、3年前まで一般会計から繰り入れていた3億5千万円の法定外繰入金については、保険料を抑制するような繰入金となり、ペナルティがあるようなことを聞いているので、今後は認められている繰入金以外は繰り入れないように考えています。</p>
2号委員	<p>法定外繰入金は入れないということでしょうか。</p>
保険年金課長	<p>保険料を抑制するような繰入はできないので、今ある基金を使いながら、税金の上げ幅を抑えることを考えていきたい。当初引き下げたときは、毎年基金から7千万円から1億円ほど取り崩していく予定であったが、県への納付金が今年度大きく増えことから基金を大きく取り崩したことで予定が狂ってしまいました。</p> <p>保険税を見直そうとすると、一人当たりの額が大きくなるので、いろいろなご意見をいただきたいと思います。</p>
1号委員	<p>基金に、来年度は頼ることができても、それ以降は難しいのではないのでしょうか。この制度になったとき、国、県から騙されたような気がします。</p>
保険年金課長	<p>初年度、県からの納付金が想定していたよりかなり少なかった。2、3年は同程度の額が続くと想定されたので、1人当たりの保険税を13.8%下げました。しかし、2年目の平成31年度の納付金が、25億7千万円から28億9千万円になった。本来は、財政を安定化されるための制度改革であったにもかかわらず、関市では3億2万円増えました。大きな変動は、安定といえません。市民にとっても説明できないと県には申し入れを行っています。本来は安定のための制度改革であったはずが、とても安定とはいえない。県の示す標準保険料率で保険税を決めると一人当たりの保険税が4万円も上がってしまいます。県は、国が示した計算式で納付額を算出しています。実績を積み重ねていくと、ある程度の数字が固まってくるのではないかと思います。正直に県の示す金額についていくと、保険税が大きく変動することになってしまいます。</p> <p>今は、基金を使っていきたいと考えています。未来の変動にも対応できるようある程度残しながら基金を使っていきたいと思いますが、かなり保険税をあげていかないと保険財政が持ちません。</p> <p>試算A案での上げ幅について、どう思われますか。国のペナルティを覚悟のうえで、一般会計からの繰入という考え方もあります。今後の保険税についてのご意見を伺いたいと思います。</p>

1号委員	基金残高を増やすには、被保険者数を増やすのか、被保険者の所得を増やすのか、どうしたらよいのでしょうか。
保険年金課長	使う以上に保険税を集めれば基金を積みことができます。残金の半分を積まないといけないという法律があります。残金があれば増やすことができます。現在は、歳入に対して、歳出が多いので、逆に赤字補てん分を基金から取り崩しています。
1号委員	医療費を使わないようにすれば、基金が増えるということでしょうか。
保険年金課長	医療費は、全部県が払います。その分を、県から市へ請求がきます。その請求が平成30年度から平成31年度に3億2千万円が増えました。県からの請求額より保険税を多く集めれば、基金は増えていきます。しかし、県からの請求額が増えたため、保険税では足りなく基金を多く取り崩しました。県が集めるようにと言っている額を集めるとう一人当たりでは2割ほど保険税がアップしてしまいます。
事務局	県が示す保険料率で保険税を願いますと一人当たり23,000円ほど上がってしまいます。4人家族であればかなりの額なので、基金を活用すれば、急激な増加は抑えることができます。
保険年金課長	県の示す標準保険料率では、4人家族であれば9万円ほど上がることとなります。県平均よりすこし上がる程度を試算A案として示しています。2年前に保険料率を下げたときは反響が少なかった。下げたところから、上げるのは大きな税率アップとなります。基金を使いながら大きな変動とらないようにしたいと思います。
議長	おととしの水準との比較はどうでしょうか？
保険年金課長	おととしの税率では、一人当たり100,000円ほどになります。
議長	元に戻したレベルであれば、納得しやすいのではないのでしょうか。
2号委員	保険税を上げざるをえないのは理解しました、繰入もできない中では仕方がないと思います。市民の方に詳しい文書を出しても、市民の方は読んでもらえないと思います。下がった分、戻すというのがわかりやすいのではないのでしょうか。パーセントで戻すのか、金額で戻すのかについては、考え方はあると思いますが、元に戻すということのほうが説明しやすいのではないのでしょうか。
4号委員	方向的にはやはり上げざるを得ないだろうと思います。毎年毎年、県の納付金に応じて見直していると、市民の方は不安を感じると思われます。2、3年先を見越したうえで、そのうえで保険料率を決めていったほうがいい。協会けんぽではリーマンショックの時、給料が減って人が減って一気に保険料率8%から9.4%まで上げざるを得なかった。

市民の方に十分な説明をして、保険税を上げるには、毎年変わるような金額ではなく2、3年先を見越した設定を考えていけるといいと思います。  
被用者保険の立場からは、法定外繰入金は、一律納めた税金の中で、さらに国保のために支出することになるので、二重に負担している形になります。国のいうようにある程度制限があってもいいと思います。

1号委員

私たちは健康保険を負担して、お医者さんに掛かっているときに、2、3割窓口で支払って利点ももらっています。若いときはそんなに病院にいったが年をとると病院にかかることが多くなります。100%自己負担でお医者さんにかかればすごい金額になります。すこし保険料がアップしても、仕方がないと思います。保険税がすこしアップしても、一回は、びっくりすると思うけど、国民健康保険に加入していることで皆さん利点ももらっているから納得してもらえんと思います。  
保険料がアップすることで保険財政の安定が増し、安心も増すのではないのでしょうか。アップせざるを得ないのではないかと思います。

1号委員

2年前に安くなったことも、この委員になって初めて知りました。保険税アップについてもお伝えすれば、わかってもらえるのではないのでしょうか。

3号委員

保険税は上げざるをえないと思います。いずれ基金は枯渇するので、3年、5年先を見据えた保険税を設定できるといいのではないのでしょうか。

2号委員

標準保険料率は毎年かわってくるのでしょうか。

保険年金課長

そうです。平成30年度にはじめて県から納付金の請求書もらったときは、2、3年はかわらないのではないかと想定のもと下げました。県の請求書をもとにやっていると、保険税の変動が大きくなってしまいます。関市で独自の保険料率を見つけ、設定できればよいかと思います。また、今年度残高が半分になってしまう基金ですがうまく活用して保険料率の設定を考えていけるといいと思います。  
保険税が下がったのはご存じなかったのでしょうか。ひとり、ふたりは窓口でおっしゃられてましたが、ほとんどありませんでした。

1号委員

私は、上がったって言われなかったら気が付かないかもしれません。

保険年金課長

口座から自動で落ちていると気づきにくいかもしれません。

議長

県からの納付金は、関市の被保険者の医療費とだいたいイコールなのではないでしょうか。

保険年金課長

県から医療費として67億円もらって、納付金を28億円納めています。全国的には毎年2%ずつ医療費は増加しています。県内で一人当たり使っている医療費は30万円ほど。これに国からの補助金が入っています。国保税として集めている中には、後期高齢者医療分、介護分が含まれており、単純に医療費だけではありません。  
上手に基金を使いながら、急激な上げ下げにならないように保険料を決めていきたい

と思います。法定外繰入金については、市独自の事業分は国が認めているので繰入れ、保険税を考えていきたいと思います。

議 長

2月ごろに正式に県から通知がくるということですね。

保険年金課長

そうです。

議 長

今まで話があったなかで、市民の代表として、話があったら、おっしゃってほしいと思います。

(意見なし)

本日の議論を踏まえて、事務局は答申案をまとめていただきたい。具体的な数字について、県からの要求される金額を待ってからということになります。

保険税の見直しについては、極端に上げたり下げたりしないよう先々を見越して、継続的に制度が維持していけるよう、なるべく負担感が少ないように進めるということによろしいでしょうか。

(拍手多数)

それでは、以上をもって本会議に付議されたすべての議題について審議したことを報告し、議長を退任いたします。ありがとうございました。

午後3時00分閉会